

もくじ

■ 公共（公共 701）

1	学習の到達目標	2
2	科目の特色	2
3	学習の計画	3
4	評価の方法	25
	【参考】授業の進め方と学習に当たって	26

公共	単位数	2 単位（70 時間）
	学科・学年・学級	〇〇科 第〇学年 〇組
使用教科書、副教材等	東京書籍「公共」（公共 701）， 「公共ワークノート」（以上東京書籍）	

1 学習の到達目標

- ① 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けます。
- ② 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養います。
- ③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めます。

2 科目の特色

『公共』は公民科に設置された新しい科目です。上記の科目の到達目標が達成できるよう、以下のように構成されています。

第1部「『公共』のとびら」では、現実社会の諸課題を見だし、解決に向けて選択・判断の手がかりとなる考え方や「公共的な空間」における基本的原理を学習します。第1部で学んだ考え方や基本的原理は、第2部・第3部の学習で活用されるものです。

第2部「自立した主体として社会に参画する私たち」では、政治、法、経済、職業生活、国際社会の分野ごとに学習します。第2部は5章13テーマで構成されており、各テーマは1見開きの「追究しよう」と複数の見開きの「本文ページ」で構成されています。各テーマの冒頭の「追究しよう」では、テーマに関する具体的な課題を設定して、追究したり解決したりする活動のプロセス（「つかむ」→「考える」→「まとめる」）にそって学習します。

〈13のテーマ〉

第1章 政治 民主政治と政治参加

第2章 法 法や規範の意義と役割／市民生活と私法／国民の司法参加

第3章 経済 現代の経済と市場／市場経済における金融の働き／
財政の役割と持続可能な社会保障制度

第4章 職業生活 働くことの意義と職業選択／労働者の権利と雇用・労働問題

第5章 国際 国際社会のルールとしくみ／国際社会と平和主義／国際平和への課題／
グローバル化する国際経済

第3部では、持続可能な地域、国家・社会および国際社会づくりをにない、公共の精神をもった自立した主体になることをめざし、現代の諸課題を探究する学習活動に取り組みます。具体的には、自分の探究課題（問い）を決め、情報を収集し、読み取り整理した上で自分の主張を決め、ミニレポートを作成します。

これらの学習を通じて、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することをめざします。

3 学習の計画

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
4月	第1部「公共」のとびら 第1章 公共的な空間をつくる私たち—社会のなかの自己 (1) 現代社会に生きる青年	1 青年期と自己形成の課題	○青年期の特徴や発達課題としてのアイデンティティの確立の理解を手がかりに、青年期に生きる自己形成の課題について考察します。	○青年期における心の動きや自分自身の捉え方、人間関係などの特徴をふり振り返りながら、青年期の特徴や発達課題について理解します。
		2 自己形成と社会への参画	○現代社会で生きる上で何が課題なのか、現代社会の特質やキャリア開発の意義、社会参画を通じて育てるシティズンシップの意義などについて理解します。 ○キャリア開発や社会参画の視点から、青年期に生きる自己形成の課題について考察します。	○現代社会で生きていく上で、青年期に求められることは何か、幅広く考えるとともに、キャリア開発や社会参画の意義について気付き、考えます。

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
	(2) 社会的な関係のなかで生きる人間	1 個人として尊重される人間	○自由についてのカントの道徳法則と人格, J.S. ミルの自由についての考え方の理解を基に, 人間を「個人」として尊重することの意味について多面的・多角的に考察します。	○規則と自由に関する課題について, カントの義務論や J.S. ミルの自由論を手がかりに, 実際的な場面を想定しながら, 理解を深めます。 ○教科書記載のパターンリズムの例を用いて, 規制と自由の関係について考えます。
		2 社会的な存在としての人間	○アーレントやハーバーマス, 和辻哲郎の思想の理解を手がかりに, 社会的な存在としての人間のあり方及び公共空間について考察します。	○日常的に用いられる「公共」の意味について考えながら, アーレントやハーバーマス, 和辻哲郎の捉えた社会的存在としての人間について理解します。
		3 伝統・文化のなかの人間	○丸山真男の考え方, 「公」と「私」の捉え方などを手がかりに, ものの捉え方や考え方が伝統・文化と深くかかわっていることを理解し, そこにおける課題について考察します。	○日常使われている言葉の意味や用法に伝統や文化がかかわっていることに気づき, それがどのような課題につながっているか考察します。

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
5月	第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方一共に生きるための倫理	1 功利主義と幸福の原理	<ul style="list-style-type: none"> ○行為選択の理由付けについて、目的論と義務論の考え方があることを理解します。 ○目的論に関して、帰結主義による功利主義と徳倫理学の主な考え方を理解します。 ○これらの先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察し議論します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○行為の判断や選択の場面を想定し、まず目的論と義務論の区別について理解します。 ○功利主義の快樂や幸福の考え方が、社会のあり方と関連していることを、経済や福祉政策などを事例に理解します。 ○人間にとっての善さや幸福を、人が徳を備えることに求める考え方を理解します。 ○思考実験を用いて選択・判断とその理由について考察します。
		2 義務論と公正の原理	<ul style="list-style-type: none"> ○義務論について、カントの道徳法則や自律の意味について理解します。 ○社会的不平等の是正について、ロールズの公正としての正義の考え方やセンの潜在能力という考え方を理解します。 ○これらの先人の思想を手がかりに、思考実験を用いて、課題解決の方法について考察し議論します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○結果ではなく義務に基づいて行動すべきとする場面を想定しながら、カントの考え方を理解します。 ○社会的不公正の是正について、社会保障政策などを手がかりにロールズやセンの考え方を理解します。 ○思考実験を用いて選択・判断とその理由について考察します。

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		活用 生命倫理について考える	<ul style="list-style-type: none"> ○生命科学の進歩がもたらしたエンハンスメントとその倫理的課題について理解します。 ○功利主義と義務論の考え方を手がかりに、エンハンスメントについて考察し議論します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○エンハンスメントの事例をあげながら、そこにどのような倫理的課題があるかを理解します。 ○すでに学んだ功利主義と義務論の考え方を手がかりに倫理的課題について考察・判断します。
		活用 環境倫理について考える	<ul style="list-style-type: none"> ○人間の活動の急速な拡大がもたらしている環境問題にかかわる思想や環境倫理について理解します。 ○功利主義と義務論の考え方を手がかりに、環境にかかわる倫理的課題について考察し議論します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○開発にともなう倫理的課題とはどのようなものかを理解します。 ○すでに学んだ功利主義と義務論の考え方を手がかりに、環境にかかわる倫理的課題について考察・判断します。
5月	第3章 公共的な空間における基本的原理—私たちの民主的な社会	1 公共的な空間における協働とは	○社会における利害の調整のしくみとしての市場の働きと国家の役割, 及びそれぞれの課題について理解します。	○市場機構における財やサービスの配分が社会の利害調整の役割をしていることに気付きます。また, 国家による調整は, 立憲主義に基づく手続きによることを理解します。
		2 民主主義とは	○社会における意見や利害の調整, 意思決定における民主主義の意義, それらの課題について理解します。	○民主主義の手続きや方法の意義について具体例をあげながら理解するとともに, その課題について考えます。

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		3 立憲主義とは	<ul style="list-style-type: none"> ○法の支配や近代立憲主義の意義について、歴史的背景もふまえながら理解します。 ○立憲主義と民主主義の緊張関係の意味について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校社会科での学習もふまえながら、法の支配や立憲主義の意義について、基本的人権の尊重や権力の濫用防止の観点から理解します。
		4 人権保障の意義と展開	<ul style="list-style-type: none"> ○公共的な空間における基本的原理の一つである、人間の尊厳と平等について、その意義、歴史的展開、現代の動向について理解します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○人間の尊厳と平等、基本的人権の尊重の意義について理解するとともに、歴史的経過のなかで発展し今日に至っていることに気付きます。 ○現代における人権の展開については、国内の法整備にも具体化されていることに気付きます。
6月	第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第1章 民主政治と私たち	テーマ1 民主政治と政治参加 追究しよう 民意を反映した政治を実現するには？	<ul style="list-style-type: none"> ○民意を反映した政治を実現するための現状と課題について、世論調査、投票率、世論調査と選挙結果の関連から理解します。 ○国民投票のメリットとデメリットについて、＜多数決＞と＜熟議＞の二つの視点を手がかりに、多面的・多角的に考察し議論します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国や地方の政治に民意を反映させる制度について、中学校までの既習事項などをおして理解します。 ○選挙による方法、国民投票による方法について、民意を反映させる点でどのような特徴や課題があるか、考察します。

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		1 私たちの民主政治	○政治の働き, 民主主義の具体的な姿について理解するとともに, 現在の民主主義の課題について考察します。	○身近に存在する政治に気付くとともに, 民主主義にかかわる制度や活動について理解します。 ○現代民主主義の課題については, 20 世紀の歴史をふまえながら考察します。
		2 地方自治のしくみと役割	○地方自治の原則としくみ, 地方財政のしくみと課題, 住民参加の形態と意義について理解するとともに, 地方自治の課題について考察します。	○地方自治の本旨について確認すると同時に, 国の政治と比較しながら地方自治のしくみについての理解します。 ○地方財政については, 具体例などを取り上げながら, 財政や事務について理解します。
		3 国会のしくみと役割	○三権分立と国会の地位, 国会の役割と権限, 国会の構成と運営について, 実際の政治事象とも関連させながら理解します。 ○政治のしくみと制度を前提として展開される実際の政治の運営の現状と課題について考察します。	○三権分立, 国会の組織と権限については, 日本国憲法の該当条文も参照しながら, 理解します。 ○実際の政治事象を取り上げながら, 国会の果たしている役割について具体的に理解します。

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		4 内閣のしくみと役割	<p>○内閣と国会との関係、内閣の役割と行政組織、行政国家化と行政改革について、実際の政治事象とも関連させながら理解します。</p> <p>○国会を基盤に行政権を行使する内閣と行政組織、行政権が肥大化した今日の行政の課題について考察します。</p>	<p>○内閣と国会の関係については、日本国憲法の条文を参照すると同時に、実際の政治事象を参考に理解します。</p> <p>○行政機構と行政事務については、具体的な事例を参考に理解します。</p> <p>○行政権の役割の拡大に伴う諸課題と対応について具体例を取り上げながら考えます。</p>
		5 政治参加と選挙	<p>○政治参加のさまざまな方法、民主政治と選挙制度、日本の選挙制度と課題について、実際の事象とも関連させながら理解します。</p> <p>○有権者の意思をよりよく反映するという視点から、日本の選挙制度について考察します。</p>	<p>○近代の選挙の原則の重要性を確認するとともに、日本の選挙制度について、近年の実施例なども取り上げながら、具体的に理解します。</p> <p>○18歳から選挙権を有することをふまえ、投票による政治参加の意義に気付きます。</p>

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		6 政党と利益集団	<ul style="list-style-type: none"> ○民主政治における政党の役割, 日本の政党政治, 政治に影響を及ぼそうとする利益集団, 政治資金にかかわる課題などについて理解します。 ○民主政治における政党や利益集団の役割, 政治資金にかかわる課題について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○選挙の際の政党の政権公約, 政党間の議論などを参考に, 政党の役割に気付きます。 ○利益集団についても具体例をあげながら政治的意味に気付きます。 ○政治資金については, 関連する報道などを参照し, 政治資金の規正の重要性に気付きます。
		7 メディアと世論	<ul style="list-style-type: none"> ○民主主義における世論の意義, メディアの世論への影響, インターネット時代の世論形成の現状と課題などについて理解します。 ○世論形成に及ぼすメディアの役割, 正しい情報に基づく合理的な判断の重要性について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○メディアが取り上げる論点を比較したり, 変化していく世論に気付いたりすることによって, 民主主義における世論の重要性を理解します。 ○政府やメディアが行う世論調査の内容を概観し, 世論のイメージを把握します。
7月	第92月章 法の働きと私たち	テーマ1 法や規範の意義と役割 追究しよう 法は私たちの生活にどのようなにかかわるのか?	<ul style="list-style-type: none"> ○法や規範の意義や役割を考えるために, 「観光地での食べ歩き」に関する法規制の事例や海外の事例を理解します。 ○観光地での食べ歩きの法規制について, 多面的・多角的に考察し議論します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○法と道徳や慣習などの規範の特性については, 規制する対象や範囲, 効力などの点から比較し理解します。 ○公共的な空間において, 道徳やマナーに委ねる場合と, 法的ルールによっている場合があることについて, 事例をあげて理解します。

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		1 法と社会規範の役割	<ul style="list-style-type: none"> ○道徳を含む社会規範における法の特徴, 法の役割, 法の区分とそれぞれの特徴について理解します。 ○法の性格や役割, 法の分類, 法の成立の歴史や対象などによって区分されることについて考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○法の特徴, 法の役割については, 具体例をあげながら理解します。 ○社会法については, 日本国憲法に定める社会権の規定との関連に気付きます。
		2 法の成立と適用	<ul style="list-style-type: none"> ○法案の作成と提出, 民事裁判と刑事裁判, 裁判における法の適用, 法の解釈の意味などについて理解します。 ○民事裁判, 刑事裁判の手続きの特徴, 法の適用と解釈, 市民にも求められるリーガルマインドの意義について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○民事裁判, 刑事裁判に関する報道などを参考に, 両者の手続きの特徴について理解します。 ○法の解釈, 判例については, 実際の裁判事例をとおして理解し, 関心を持ちます。
		テーマ2 市民生活と私法 追究しよう 現代の市民生活における私法の役割と意義は何か?	<ul style="list-style-type: none"> ○市民生活における私法の役割と意義に関連して, インターネットによる契約の特性や転売について理解します。 ○転売仲介サイトで不正なチケットが届いた場合の対処について, 多面的・多角的に考察し議論します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○インターネットによる売買契約の特性や取り消しに関する情報, 売買に関するトラブルの事例などから, インターネット販売について理解します。 ○「視点1」と「視点2」については, 判断するためのいくつかの論点があり, 熟読しながら理解します。

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		1 市民生活と法	<p>○私法の性格, 私法の三つの原則, 過失責任の原則などについて理解します。</p> <p>○私法の三つの原則の意義, 公共の福祉とのかかわり, 過失責任の原則の意義について考察します。</p>	<p>○身の回りの具体的な例を取り上げて, 私法と私法の3原則, 過失責任の原則について理解します。</p> <p>○日本国憲法の関連する規定も参照します。</p>
		2 多様な契約	<p>○契約自由の原則, 契約の種類, 契約自由の原則の修正などについて理解します。</p> <p>○契約の種類とその特色, 契約自由の修正が必要な理由について考察します。</p>	<p>○売買契約, 賃貸借契約, 労働契約, 消費貸借契約などについて, 具体的な例を取り上げ, 契約自由の原則の意義とその修正が必要な場合について考えます。</p>
		3 消費者の権利と責任	<p>○消費者契約の特色, 消費者法制と消費者の権利, 消費者主権と消費者市民社会形成などについて理解します。</p> <p>○消費者契約や消費者法制が, 消費者の権利とその尊重, 自立支援をめざしていることについて具体的な例をとおして考察します。</p>	<p>○消費者問題の例を取り上げて, 消費者契約や消費者法制, 消費者支援機関の役割, 消費者市民社会の形成について考えます。</p>

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		<p>テーマ3 国民の司法参加 追究しよう 国民が司法に参加するうえで考えるべきことは何か？</p>	<p>○裁判員と死刑制度, 死刑制度の合憲性と世論, 国際社会における死刑制度について理解します。 ○裁判員として死刑の判断を下すことの是非について, 多面的・多角的に考察し議論します。</p>	<p>○教科書 p. 108～p. 111の内容を参照しながら, 裁判員として刑事裁判に参加することの意義と責任について考察します。 ○二つの視点以外の論点についても考察します。</p>
		<p>1 司法のしくみと役割</p>	<p>○司法権とその独立, 裁判制度のしくみ, 違憲審査権について理解します。 ○司法権の独立, 三審制, 違憲審査権の意義について考察します。</p>	<p>○司法権の独立を確保するための日本国憲法の規定, 三審制や裁判の原則公開, 国民審査などの制度の意義について考察します。 ○違憲審査権については, 違憲判決がなされた事例を通じてその意義に気付きます。</p>
		<p>2 刑事司法と司法参加の意義</p>	<p>○刑事司法のしくみや原則, 刑事司法の課題, 裁判員制度や検察審査会制度について理解します。 ○刑事司法の課題や司法への民意の反映の意義と課題について考察します。</p>	<p>○刑事手続きが法令に則って進められること, 被疑者や被告人の権利保障についても理解します。 ○刑事司法の課題や司法への民意の反映については, 例えば報道の資料などを用いて関心を持ちます。</p>

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
9月	第130期・経済社会で生きる私たち	テーマ1 現代の経済と市場 追究しよう 公正で自由な経済活動のために政府の役割はどうあるべきか？	<ul style="list-style-type: none"> ○市場を公正で効率的に働かせるための規制に関連して、タクシー事業の現状について理解します。 ○タクシー事業の規制のあり方について、多面的・多角的に考察し議論します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○タクシー事業の規制については、実際の報道や記事などの資料をとおして理解します。 ○タクシー以外のバス事業などの交通運輸政策についても関心を持ちます。
		1 私たちと経済	<ul style="list-style-type: none"> ○経済活動の意義、経済主体と経済循環、グローバル化のなかの経済活動の動きについて、実際の経済事象とも関連させながら理解します。 ○経済循環について、例えば「家計」を中心として、「政府」「企業」との関係を説明できるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> ○希少性、機会費用、トレードオフについて、経済の特性を捉える基本概念であることに気付きます。 ○経済循環における経済主体間の関係には、市場を通じたものと、法令に基づく制度として行われるものがあることに気付きます。
		2 市場経済のしくみ	<ul style="list-style-type: none"> ○市場経済における価格の働き、市場の失敗と政府の役割について、実際の経済事象とも関連させながら理解します。 ○市場メカニズムの意義と限界、政府の役割が求められることとの関係について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○価格の働きについては、需要曲線・供給曲線を利用して理解します。 ○外部不経済、寡占市場における資源配分のゆがみなどについては、具体的な事象を参照しながら理解します。

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		3 国民所得と経済成長	<p>○経済の指標の計算方法と意味, 経済成長とその要因, 景気変動と物価について, 実際の経済事象とも関連させながら理解します。</p> <p>○景気変動や物価の変動, インフレーションなどが人々の生活にどのように影響を及ぼすか考察します。</p>	<p>○経済の大きさや動きなどを示す指標として GDP があること, また, 豊かさを示す上での GDP の限界にも気付きます。</p> <p>○経済成長率は, 経済政策の目安となると同時に, 各国の経済の動向を示す目安としても用いられていることに気付きます。</p>
		<p>テーマ2 市場経済における金融の働き</p> <p>追究しよう 金融はどのような役割をになっているのだろうか？</p>	<p>○起業家にとっての資金調達と直接金融, 間接金融, クラウドファンディングなどの新たな資金調達について理解します。</p> <p>○起業家は資金提供者に対してどのような情報を発信すべきか, 多面的・多角的に考察し議論します。</p>	<p>○クラウドファンディングについては, いくつかの例をとおして理解します。</p> <p>○間接金融, 直接金融とクラウドファンディングそれぞれの特色と違いを比較しながら理解します。</p>
		1 金融のしくみと働き	<p>○貨幣の役割と通貨制度, 直接金融と間接金融, 金融システム, 金融市場と金利の動きについて, 実際の経済事象とも関連させながら理解します。</p> <p>○金融と金融システムが日々の生活と密接にかかわっていることに気付きます。</p>	<p>○銀行や証券会社, 保険会社などの具体的な金融機関の業務などを調べることをとおして, 金融のしくみについて理解します。</p>

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		2 中央銀行の役割と金融環境の変化	<p>○中央銀行の役割, 中央銀行の行う金融政策, 金融の自由化と金融商品の多様化について, 実際の経済事象とも関連させながら理解します。</p> <p>○金融政策の近年の動向, 金融の自由化と金融商品の多様化にもなってどのような課題があるか考察します。</p>	<p>○金融政策については, 市場における通貨量の調整がどのようにして図られるのか, そのしくみに着目して理解します。</p> <p>○金融の自由化, 金融商品の多様化が, 消費者にどのような利便性と課題をもたらしているか, 具体的に考えます。</p>
		テーマ3 財政の役割と持続可能な社会保障制度 追究しよう 「持続可能な財政」を実現するためにどうすべきだろうか?	<p>○諸外国と比べた日本の財政規模, 財政危機の原因について, 資料を手がかりに理解します。</p> <p>○財政の課題を解決し持続可能な財政とするために, 多面的・多角的に考察し議論します。</p>	<p>○日本の財政規模, 財政危機については, 教科書 p.134, p.137, p.139 の資料を参考に把握します。</p> <p>○<歳出>の削減, <歳入>の増加については, 視野を広げて多面的・多角的に考察します。</p>
		1 財政の働き	<p>○財政の三つの機能, 財政政策, 財政のしくみや租税法律主義などについて, 実際の事象とも関連させながら理解します。</p> <p>○財政と財政政策を通じて, 経済政策や福祉政策その他の政策が行われていることを理解します。</p>	<p>○所得の再分配や財政政策については, 具体例をとおして理解します。</p> <p>○財政については, 歳入構造, 歳出構造の変化の背景に気付き, 財政の動きに関心を持ちます。</p>

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		2 財政の課題	<p>○租税の分類, 課税の原則, 国債の役割, 財政問題と財政危機について, 実際の事象とも関連させながら理解します。</p> <p>○財政問題については, 資料を読み取りながら問題解決の方向性について考察します。</p>	<p>○租税の種類については, 実例をあげながら理解します。</p> <p>○財政問題については, テーマ3の内容とも関連させて, 問題の解決の方向性について考えます。</p>
		3 社会保障の考え方	<p>○社会保障の意義と歴史, 日本の社会保障制度について, 実生活とのかかわりも含めて理解します。</p> <p>○社会保障制度の意義について, 多面的・多角的に考察します。</p>	<p>○日本の社会保障制度の四つの柱については, さまざまな生活場面を想定して具体的に理解できるようにします。</p> <p>○日本の社会保障制度については, 保険制度, 公費によるものなどがあることを理解します。</p>
		4 社会保障の課題とこれから	<p>○少子高齢化の進む日本の現状, 社会保障の財源確保, 社会保障と経済の活性化とのかかわりなどについて理解します。</p> <p>○少子高齢化の進展のなかで, 今後の社会保障制度をどのように展望するか諸外国の例も参考に考えます。</p>	<p>○高齢化, 少子化がもたらす影響をさまざまな視点から理解します。</p> <p>○今後の社会保障制度の方向性として, 低福祉・低負担, 高福祉・高負担などの観点から考えます。</p>

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
1 1	第4章2 私たちの職業生活	テーマ1 働くことの意義と職業選択 追究しよう これからの時代の職業選択をどのように考えればよいのだろうか？	○産業革命の変遷と日本がめざす新しい社会「Society5.0」について理解します。 ○技術革新が進むなかでの職業選択について、多面的・多角的に考察します。	○産業構造の高度化や技術革新の進展が職業や仕事にどのような影響を及ぼすのか考えます。 ○職業生活において何を大切にしたいか、理由も含めて考えます。
		1 働くということ	○働くことの意義、産業社会の発達と職業の変化、労働市場の役割などについて、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解します。 ○技術革新の進展のなかで、今後の職業や労働がどのように変化していくのか、そこにおける課題について考察します。	○職業については、社会生活における意義や役割、産業とのかかわりなどの視点から理解します。 ○労働市場における労働力の需給調整については、有効求人倍率などを参考にして理解します。
		2 多様な職業選択	○職業選択のポイント、多様化するキャリア選択、キャリア形成の課題について、実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解します。 ○職業選択の機会の多様化とこれからのキャリア形成の課題について考察します。	○自分の抱いている職業観とその職業が必要とする能力との関連について考えます。 ○自分のこれまでの学習や経験をとおして形成してきたキャリアが、今後の職業とどのように結びつくか考えます。

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		<p>テーマ2 労働者の権利と雇用・労働問題</p> <p>追究しよう 望ましい労働環境を実現するために必要な取り組みは何か？</p>	<p>○労働条件の基準を定める法令が存在するものの、「過労死」や「ブラック企業」が問題になっている状況を理解します。</p> <p>○「過労死」をなくす対策について、多面的・多角的に考察し議論します。</p>	<p>○「過労死」「ブラック企業」などについては、関係する報道や記事などから、具体性を持って理解します。</p> <p>○労働時間のあり方は、ワーク・ライフ・バランスの問題であることについて考察します。</p>
		<p>1 労働者の権利</p>	<p>○資本主義社会における労働契約の特性,労働者の権利と労働三法の内容,労働条件改善に向けた課題について,実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解します。</p> <p>○労働契約の特性をふまえて,労働者の権利保障が必要であることについて考察します。</p>	<p>○労働関係法が,どのように労働者の権利の保護に寄与しているのか,具体的な事例を取り上げて理解します。</p> <p>○労働基準法に定める労働条件の最低基準については,具体的に理解します。</p>
		<p>2 現代の雇用・労働問題</p>	<p>○雇用環境の変化,現代のさまざまな労働問題,働きやすい労働環境について,実際の職業や労働のあり方とのかかわりも含めて理解します。</p> <p>○仕事と家庭生活の両立,男女格差の解消,安定した雇用などにかかわる課題とその解決の方向性について考察します。</p>	<p>○現代のさまざまな労働問題や労働環境の改善については,報道や関係の記事などをおして,より具体的に理解します。</p>

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
1 2	第51章・国際社会のなかで生きる私たち	<p>テーマ1 国際社会のルールとしくみ</p> <p>追究しよう 国際社会の課題を解決するためにどのようなルールが必要か？</p>	<p>○有限な資源を将来にわたってどのようなルールの下で維持・管理するのか、漁業をめぐる国際社会の課題を理解します。</p> <p>○漁業資源の国際的な管理のあり方について、多面的・多角的に考察し議論します。</p> <p>○国家間の利害が錯綜する課題解決としてのルールや国際協力を第5章で学ぶ他の課題についても生かせるようにします。</p>	<p>○漁業資源は、鉱物資源とは異なり、海洋という“共有地”における資源であることに気付きます。</p> <p>○「視点1」「視点2」については、すでに学習した“共有地の悲劇”の考え方を参考にします。</p>
		1 国際社会の成り立ち	<p>○国際社会の成立とその特色、国際法の意義と役割、国際社会の主体の変化などについて、実際の国際的な事象と関連させながら理解します。</p> <p>○国際社会において国家間のさまざまな問題が生じる背景と外交や国際法の意義について多面的・多角的に考察します。</p>	<p>○国際法は、国内法と比較しながらその特色について理解します。</p> <p>○国家間のさまざまな問題や国際法については、具体例をとおして理解します。</p>

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		2 国際連合の役割	<ul style="list-style-type: none"> ○集団安全保障としての国際連盟, 国際連合の成立とそのしくみ, 国際連合における安全保障, 国際連合のさまざまな役割と課題について, 実際の国際的な事象と関連させながら理解します。 ○国連の安全保障に果たす意義と課題について考察します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○国際連合の安全保障への取り組みについては, 実際の国際紛争の例を資料をとおして理解します。 ○国際連合の機関の活動が, 世界の多くの人々の生活と密接にかかわっている点に気付きます。
		テーマ2 国際社会と平和主義 追究しよう 国際社会の平和と安全を実現するには？	<ul style="list-style-type: none"> ○核兵器をめぐる世界の動きを, 核拡散の現状, 国連における核兵器禁止条約, INF 全廃条約の失効などから理解します。 ○核軍縮が進まない理由について, 多面的・多角的に考察し議論します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○安全保障のジレンマについて, すでに学習した「囚人のジレンマ」を参考に理解します。 ○敵対している国家間の相互理解や信頼醸成には, 関係の国々や国連などを通じた外交が重要であることに気付きます。
		1 日本の平和主義と冷戦	<ul style="list-style-type: none"> ○平和主義と日本国憲法第9条, 自衛隊と日米安全保障条約, 戦後日本の防衛政策について, 実際の事象とも関連させながら理解します。 	<ul style="list-style-type: none"> ○日本の安全保障と日米関係については, 第二次世界大戦後の国際政治の動きとかかわらせて理解します。

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		2 冷戦後の世界と日本	<p>○冷戦後の世界の動き、冷戦終結後の日本の安全保障政策、自衛隊と海外派遣などについて、実際の事象とも関連させながら理解します。</p> <p>○日本の安全保障政策の変化の背景にある国際関係について考察するとともに、今後の安全保障の課題について追究します。</p>	<p>○個々の安全保障政策については、当時の報道や記事などを参照して理解します。</p> <p>○政府の憲法第9条の解釈の変化をとおして自衛隊の役割や位置の変化について理解します。</p>
		テーマ3 国際平和への課題 追究しよう 国際社会における責任ある行動とは何か？	<p>○主権国家内部で起こる紛争と人権侵害について、ルワンダ内戦、コンボ紛争を例に理解します。</p> <p>○人権保護のための他国や国際機関の武力介入について、多面的・多角的に考察し議論します。</p>	<p>○主権国家内部の紛争や人権侵害について、他国や国際機関がどのように対処しているのか、具体例をあげながら理解します。</p> <p>○他国による武力行使が、新たな混乱を招くことがある点に気付きます。</p>
		1 現代の紛争とその影響	<p>○現代の紛争とその要因、紛争の解決に向けた取り組み、難民問題について理解します。</p> <p>○紛争や難民問題の解決に向けて国際機関やNGOなどの取り組みが求められていることを理解します。</p>	<p>○実際の紛争の背景と要因や関係する諸国の動向、国際機関の対応などを理解します。</p> <p>○映像資料や新聞記事などを適切に活用します。</p>

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		2 平和な国際社会に向けて	<p>○平和の意味、外交を通じた平和の実現の意義、日本の立場と役割について、実際の事象とも関連させながら理解します。</p> <p>○平和憲法をもつ日本として、国際平和に向けてどのような姿勢で何をなすべきか、多面的・多角的に考察し議論します。</p>	<p>○日本が行っている国際貢献のうち、いくつかを取り上げて実際の活動を知ることによって、国際貢献の意義について理解します。</p>
		<p>テーマ4 グローバル化する国際経済</p> <p>追究しよう 経済のグローバル化は現代社会にどのような影響をもたらしたか？</p>	<p>○拡大するサービス貿易、「プラットフォーム」の国境をこえた展開を例に経済のグローバル化の現状と課題について理解します。</p> <p>○「プラットフォーム」の進出にともなう課題について、多面的・多角的に考察し議論します。</p>	<p>○「プラットフォーム」が展開するデジタル事業が、なぜ生活のなかに浸透してきたのか、企業の目的も含めて考えます。</p> <p>○二つの視点の学習を通じて、経済のグローバル化と国内外の課税や市場管理とのかかわりについて理解します。</p>
		1 貿易のしくみ	<p>○自由貿易と保護貿易、自由貿易の推進に向けた体制、国際収支統計の意味について、実際の経済的事象とも関連させながら理解します。</p> <p>○リカードの比較生産費説の概要、国際収支統計からわかる経済取引の状況について理解します。</p>	<p>○輸出入にかかわる政策手段には、関税、輸入数量制限、輸出促進のため補助などがあることを理解します。</p> <p>○国際収支の項目ごとの取り引き金額の推移からうかがわれることについて考察します。</p>

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
		2 国際金融のしくみと動向	<p>○為替のしくみと外国為替市場, 国際通貨制度とその変化, 国際金融の動向について, 実際の経済的事象とも関連させながら理解します。</p> <p>○為替相場の変動が貿易取引や金融の動きにも影響を及ぼすことを理解します。</p>	<p>○為替相場については, 日々の経済ニュースによる情報をおして理解すると同時に, 変動の背景や影響についても考察します。</p> <p>○国際金融の動向については, 当時の報道や記事などをおして理解します。</p>
		3 グローバル化と今日の国際経済	<p>○現在の国際経済秩序と動き, 地域統合の歴史と現在, 台頭する新興国の動きなどについて, 実際の事象とも関連させながら理解します。</p> <p>○国際経済の秩序や動きは, 経済だけでなく政治的な要因も含めて, さまざまな関係のなかで展開していることを理解します。</p>	<p>○国際経済秩序については, 国際協調の動きとともに保護主義・一国主義の動きがあることを事例から理解します。</p> <p>○地域統合のうち FTA や EPA については, 日本の取り組みを例に内容を理解します。</p>
		4 国際経済の諸課題	<p>○南北問題の背景と推移, 人口・食料問題, 格差の是正に向けた取り組みについて, 実際の事象とも関連させながら理解します。</p> <p>○構造的な問題としての南北問題, 人口・食料問題の解決には, どのような取り組みが考えられるか考察し議論します。</p>	<p>○南北問題の背景については, 植民地の時代の経済関係, その後の国際分業の構造, 一次産品の価格などの視点から理解します。</p> <p>○格差の是正に向けた取り組みについては, SDGs (p. 194, 195) を取り上げて具体的に理解します。</p>

	単元名	学習項目	学習のねらい	主な学習活動
2月	第33部 持続可能な社会づくりに参画するために	1 探究のイメージをつかもう 2 探究プロセス	○現代の諸課題について、探究的な課題を設定し、課題解決に向けて必要な情報を収集して分析したり考察したりします。 ○探究の結果や自らの主張を論拠を明確にして説明したり表現したりします。	○課題設定の理由及び課題解決の仮説や見通しを吟味します。 ○研究のアウトラインや構成を見通しながら、必要な資料の収集や整理の仕方について見通しを立てます。 ○明確になったこと、明確にならなかったことも含めて研究の成果をまとめます。

4 評価の方法

(1) 評価の結果を生かす

評価は自分自身の学習の過程や成果を確認するためになされるものです。このことをしっかり確認し、不十分な点があればその後の学習の改善につなげるようにしましょう。そのためにも、返却されたテストやレポート、自己評価などの見直しを徹底しましょう。

(2) 評価の観点

評価に当たっては、学習で身に付ける力を次の三つの観点から把握します。

知識・技能	○現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。
思考・判断・表現	○現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。
主体的に学習に取り組む態度	○よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行うなかで、自らの学習を調整しようとしている。

(3) 評価の時期と方法

- ア 各学期の定期考査では、出題範囲における知識と技能の習得の状況，思考力・判断力・表現力を評価します。
- イ 現代の諸課題を探究する際のレポートを評価のための資料とします。課題の設定・追究，まとめの学習を行う際には，教科書の「第3部 持続可能な社会に参画するために」などを参考にしてください。
- ウ 学習活動の様子や発表，討論，論述などの内容を評価のための資料とします。
- エ 自己評価やふり返しシートを参考とします。学習内容のふり返しを行う際には，教科書第1部・第2部の「まとめ」などを参考にしてください。

(4) 評定について

評定は，上記の方法で得られた評価に関する情報を総合的に判断して行います。

【参考】授業の進め方と学習に当たって

(1) 授業の進め方

- ア 現代の諸課題を捉える視点や枠組み，基本的な概念の理解を図ります。
- イ 一斉授業，グループ学習，発表などの学習活動を行い，ものごとを多面的・多角的に考察し，公正に判断する力を養います。
- ウ 資料から適切な情報を選択し，課題を追究する活動，レポートにまとめたり発表したりする活動などを行い，課題追究の方法を身に付けます。

(2) 学習に当たって

- ア 日頃からメディアで報道される時事的な課題に関心を持ち，調べたり論点を見いだしたりといったことに努めること。
- イ 客観的な資料に基づいて，諸課題を考察し，解決のあり方を模索する態度を身に付けること。